

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 1882 号

Fatty acid profiles among individuals in Nagano, Japan: potential effects on health

(長野県在住成人での脂肪酸組成について：健康長寿への効果)

原田 博 (はらだ ひろし)

博士 (医学)

論文審査結果の要旨

長野県は、日本の都道府県で最も平均寿命が長い。一般的に、海産物に多く含まれる不飽和脂肪酸は、心血管系イベントを抑制すると言われている。しかし、周囲が海に接していない長野県では、海産物以外の食品が健康維持に寄与している可能性がある。本論文は、長野県中野市在住の男女 106 人を対象とし、アンケート調査と脂肪酸組成を含む血液成分を測定した横断研究である。

対象者のうち、40 歳から 59 歳の男性では (n=44)、オレイン酸と α リノレン酸の血中脂肪酸に占める割合が、日本都市部近郊の参考値より高かった。

長野県では、全国平均と比べて野菜、キノコ類、乳製品、果物などを多く摂取しており、逆に魚類の摂取は少ない。これは、長寿食とされている伝統的な沖縄の食事や地中海式の食事の特徴と共通している。本研究の対象者では、植物に多く含まれる脂肪酸が、血液脂肪酸の中で高い割合を占めた。この結果は、長野県の食事の特徴で充分説明できる。長野県では、住民が上記の食事を長年摂取することで、中年期以降も健康が維持されている可能性が示唆された。

この論文は、長寿県である長野の食事様式に焦点を当て、植物に多く含まれる脂肪酸が疾病予防に貢献している可能性を示唆した臨床的、栄養学的に意義ある論文である。

よって、本論文は博士 (医学) の学位を授与するに値するものと判定した。